

### 4-3 将来の見通しを踏まえた課題

3-5 で述べたとおり、前回計画の分析評価と将来見通しを踏まえて、現在から将来にかけての課題を厚生労働省の新水道ビジョンにおける「安全」・「強靱」・「持続」の 3 つの観点から以下に整理し、特に重要な課題については下線を表示しました。

#### 安全

- ・ 現状では「安全」に関して課題はない。ただし、今後とも水質検査の計画策定と実施を継続し、水質基準を満たした安全な水の安定供給を行っていく必要がある。

#### 強靱

- ・ 施設の耐震化率は 100%であり、耐震化が完了しているが、管路の耐震化率は 3.5%と低いため、管路更新に合わせて耐震管に変えていく必要がある。また、池田浄水場と上沢配水場を結ぶ送水管の耐震性を確保する必要がある。
- ・ 給水タンクや緊急遮断弁などの非常時のための備品については、いざという時に使用可能な状態でなければならない。そのためには定期的な点検や劣化状況の確認が必要である。

#### 持続

- ・ 今後は給水人口の減少に伴い給水収益が減少していく。
- ・ 健全経営を維持するためには、料金改定の検討が急務となっている。
- ・ (旧)高台寺浄水場などの過去に使用していた水道施設（未利用施設）の処分について、住民説明会を通じて理解と協力を得る必要がある。
- ・ 管路の更新需要はすでに大きなものとなっており、実現可能な更新計画を策定した上で、計画的な管路の更新を推進していくことが必要である。
- ・ 職員が対応可能な業務量には限界があるため、仮に財源が十分にあっても、更新基準年数に基づく更新事業は困難である。
- ・ 職員の平均年齢が高いため、積極的な職員の確保と技術の継承が求められる。
- ・ 水道法の改正に伴い、水道施設台帳を整備する必要がある。
- ・ 技術継承や運営の効率化に関して水道事業の広域化は有効な選択肢であり、また、2019(令和元)年 10 月に改正された水道法においても推進すべき項目として広域化を挙げているため、検討を進めていく必要がある。